

Formula NIPPON NEWS 2009.09.26

全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第8戦・予選 [スポーツランド SUGO]

デュバル(NAKAJIMA RACING)が今季3回目の予選1位

ルーキー・オブ・ザ・イヤーを争う塚越は3位、大嶋は6位に

9月26日(土)、全日本選手権フォーミュラ・ニッポン第8戦の予選が秋晴れに恵まれたスポーツランド SUGO(宮城県)で行なわれた。ポールポジションはNo.31 ロイック・デュバル(NAKAJIMA RACING)が、SUGOの全カテゴリーを通じたコースレコード(1'06.514: ジャガーXJR14[テオ・ファビ]/1991年)を更新して獲得した。ルーキー・オブ・ザ・イヤー(最優秀新人賞)を争うNo.10 塚越広大(HFDP RACING)は3位、No.37 大嶋和也(PETRONAS TOM'S)は6位となった。

Q1が開始されたのは午後2時30分。気温26度、路面温度38度というコンディションの中、コースがオープンされると、どのドライバーもまずはユーズドタイヤでピットを後にする。ここで各車、マシンの状態を確認。一旦ピットに戻って、タイムアタックに備えた。その中で、何台かのマシンは、セッション半ばあたりでフロントだけニュータイヤを装着してスクラブ。その後、アタックに向かっている。各ドライバーがタイムアタックに入ったのは、セッションの残り5分となったあたりから。しかし、ユーズドタイヤの段階で1分07秒063というタイムを出していたNo.32 小暮卓史(NAKAJIMA RACING)は、ここではニュータイヤでのアタックを行なわなかった。一方、ニュータイヤでのアタックで、この小暮のタイムを破ったのはデュバルのみ。以下、3番手にNo.8 石浦宏明(Team LeMans)、4番手に塚越、5番手にNo.36 アンドレ・ロッテラー(PETRONAS TOM'S)と続いている。一方、ここでQ2進出を逃したのは、No.20 平手晃平(ahead IMPUL)と今回のレースが100戦目となるNo.48 立川祐路(CERUMO/INGING)の2台となった。

10分間のインターバルを経て、Q2が開始されたのは午後3時。このセッションの開始前から、ピットロードに並んだのは石浦とNo.7 国本京佑(Team LeMans)。この2台はユーズドタイヤでマシンセットアップのためにコースへと入っていく。また小暮とNo.1 松田次生(LAWSON IMPUL)はフロントだけニュータイヤを装着してスクラブ。アタックに備えた。その後、セッションの残り時間が6分となったあたりで、ほとんどのマシンがコースイン。タイムアタックに入る。フロントをスクラブした小暮が、その1分後にコースへと入った。その小暮がアタック1周目に素晴らしいタイムを刻み、コースレコードとなる1分06秒332を叩き出した。これに続いたのは、デュバル。以下、大嶋、松田、石浦、No.41 伊沢拓也(DOCOMO DANDELION)、ロッテラーと続く。しかし、この後方では計時の問題が発生。No.2 ブノワ・トレルイエ(LAWSON IMPUL)と大嶋が全く同タイムをマークしていたことがその発端。この場合、先にタイムを出したドライバーのポジションが上となるのが正しく、今回の場合は大嶋が上位になるはずだった。しかし、計時システムの手違いから、場内のモニターにはトレルイエが8番手、大嶋が9番手という表示がなされてしまった。これがQ3に影響を与えた。Q3開始前、両選手の所属チームは、コントロールタワーで出走の可否を確認するが、Q3開始時間が迫ったため、競技団は両方のマシンに出走を許可。このためQ3では9台が走行することとなった。一方、ここでQ3進出を逃したのは、国本とNo.40 リチャード・ライアン(DOCOMO DANDELION)だった。

そして、Q3が始まったのは、午後3時20分。ここで石浦、松田、ロッテラー、伊沢の4人はフロントにニュータイヤを装着してスクラブ。その後、アタックに向かう。その他のドライバーは、残り時間が6分ぐらいとなったところから前後ともにニュータイヤを装着してタイムアタックへ。ここでトップタイムを刻んだのは、デュバルだった。Q2でトップだった小暮は、ヘアピンと最終コーナーでミス。Q3ではデュバルにコンマ1秒及ばず、2番手に留まった。そして、チェッカー目前に3番手に浮上したのは、塚越となった。なお、Q3が終了した後に、競技団はトレルイエのQ2でのポジションが9番手と判定。その結果、Q3で7番手のタイムをマークしていたトレルイエは、明日のレースを9番グリッドからスタートすることになった。

ドライバーズとチームのタイトルは前戦でデュバルとNAKAJIMA RACINGに決定したが、ルーキー・オブ・ザ・イヤーはこの最終戦までもつれ込んだ。予選ではポイントリーダーの塚越が3番手、大嶋が6番手となったが、この差なら決勝スタートだけでもひっくり返すことは可能だ。そして、フロントローを占めるNAKAJIMA RACING勢の後ろには、今季未勝利のドライバーたちが列をなしている。最終戦も目の離せないレースとなるだろう。

Formula NIPPON NEWS 2009.09.26
全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
第8戦・予選 [スポーツランド SUGO]

予選トップ3 ドライバーのコメント

ポールポジション (予選1位)

No. 31 ロイック・デュバル (NAKAJIMA RACING)

今日の予選は、実際にはかなりタフだったね。僕のクルマは今朝からセットアップが今ひとつ決まっていなくて、リヤの安定性に欠けていた。だから、セクター1でプッシュすることができなかったんだ。Q3の最後のアタックの時は良かったんだけどね。でも、とにかく今回はチャンピオンを決めた後ということで、もうプレッシャーもないし、ただ自分のベストを尽くそうと思っていた。その結果、最後のレースでポールポジションを獲得できたなんて、すごくクールだよな。

今回から (NAKAJIMA 勢にアドバンテージがあったと言われた) リヤダンパーに関する規定が変わったけど、だからこそ余計に今日の結果に対してはハッピーだよ。今年は誰もが、なぜ僕らのクルマが速いのかを知りたがっていて、誰もがその理由はダンパーだと思っていたみたいだけど、そのダンパーがなくても僕らのクルマは速いんだってということを見せられたから。今年、僕らが速いのは、チーム全員が一生懸命努力してきた結果。そして、最後までチームメイトとともに、他チームに大きなギャップを築いて1-2で予選を終えられたことが嬉しいよ。

予選2位

No. 32 小暮 卓史 (NAKAJIMA RACING)

僕もダンパーが違う仕様になってここに来ましたが、クルマのフィーリングはすごく良くて、アジャストしていくごとに、どんどん自分の乗りやすい方向になって行きました。そういう風に、本当にいい流れで来ていた中で、最後は自分のドライビング的に足りないところがありました。Q3の1回目のアタックでは、ヘアピンでちょっとハーフスピンしてしまいましたし、その後も最終コーナーでちょっとクルマが暴れてしまって。そこでタイムロスして、結果的に2番手になってしまったという感じですね。予選の3回目に関しては、自分自身で納得がいていないですし、すごく悔しい結果に終わっているんで、明日はその分を取り戻したいと思っています。

すでにチャンピオンは (デュバルに) 決まっていますが、自分はシリーズ2位の座をかけてまだ闘わなければいけないので、明日はいいバトルをしたいと思います。

予選3位

No. 10 塚越 広大 (HFDP RACING)

今日の予選は、Q1からQ3まで、クルマのセットアップがほとんど決まっていたので、ほんのちょっとアジャストしただけでした。あとは運転の仕方とか、そういう部分で一生懸命走ったという感じです。前回のオートポリスでは、予選は良かったんですけど、レースではいいパフォーマンスができなかった。それが何故かということを経験した。今回のレースまでに見直して、ドライバーの部分でできることを一生懸命やってきました。

でも、やっぱりこのクルマでSUGOを走るのは初めてで、コースに慣れたりクルマに慣れたりする時間が必要で、そのために最後に詰める時間が足りなくなってしまったのかなという感じがします。もちろんルーキー・オブ・ザ・イヤーも獲りたいですが、表彰台は絶対獲りたいという目標で臨んでいるので、明日は最低でも表彰台に上がりたいです。

Formula NIPPON NEWS 2009.09.26
 全日本選手権フォーミュラ・ニッポン
 第8戦・予選 [スポーツランド SUGO]

第8戦スポーツランド SUGO・予選結果

スポーツランド SUGO 3,704256m

■天候：晴れ コース：ドライ 気温/路面温度：Q1 26°C/38°C, Q2 27°C/37°C, Q3 26°C/36°C

■開始/終了時間 Q1：14:30~14:50/Q2：15:00~15:10/Q3：15:20~15:30

Po	No	Name	Team	Q3	Q2	Q1
1	31	ロイック・デュバル	NAKAJIMA RACING	R1'06.540/1	R1'06.574/2	R1'06.806/1
2	32	小暮 卓史	NAKAJIMA RACING	R1'06.635/2	R1'06.332/1	1'07.063/2
3	10	塚越 広大	HFDP RACING	1'07.003/3	1'07.084/3	1'07.419/4
4	8	石浦 宏明	Team LeMans	1'07.074/4	1'07.138/4*	1'07.250/3
5	1	松田 次生	LAWSON IMPUL	1'07.087/5	1'07.138/5*	1'07.506/6
6	37	大嶋 和也	PETRONAS TOM'S	1'07.196/6	1'07.574/8**	1'07.883/10
7	36	アンドレ・ロツテラー	PETRONAS TOM'S	1'07.422/7	1'07.331/7	1'07.504/5
8	41	伊沢 拓也	DOCOMO DANDELION	1'07.524/8	1'07.279/6	1'07.803/9
9	2	ブノワ・トレルイエ	LAWSON IMPUL		1'07.574/9**	1'07.693/7
10	7	国本 京佑	Team LeMans		1'08.123/10	1'07.723/8
11	40	リチャード・ライアン	DOCOMO DANDELION		1'08.329/11	1'07.993/11
12	20	平手 晃平	ahead IMPUL			1'08.207/12
13	48	立川 祐路	CERUMO/INGING			1'08.391/13

※タイムの後の数字は各セッションの順位

※タイムの前のRは新コースレコード

※Q2の同タイムは統一規則により決定した

【この件に関するお問い合わせ】

株式会社日本レースプロモーション

広報担当 石原

media@f-nippon.co.jp